



朝夷巡嶋記全傳第四編卷之二

東都 曲亭主人編輯



中輯第二十三

城を拔せし義士の功
魔と攘ふ良將の弓

總大将光仲ハ廣綱と共に城に入りて彼此を展檢し更ハ士卒の部々
前後の城門を固させ再て城戸四郎武詮水草太郎五昌之を成りし
その軍功を褒賞しさていりし御邊ホハ尚弱討めし且その徒三
十名ハ過ぎ暴道時夏二隊の賊軍城より遠く推出し城の中より
成る賊兵ハ亦夥しき謀を以て速に乘取し其の意の爲に
詳小告りしとていりし兩人辞し去りしこの義ハ切ん尋とヤリし
上にとりしゆつれど嚮く度のりそりし且黙止ゆひは抑前月上旬

らに月て口也
の
本は控いかな

賊將猛虎時夏亦小圓山の館を攻破されしと見吉見冠者之擒小
 せれ主ゆゑ信夫莊司のこゝろ某ホが父兄ある。水草十郎昌甫城
 戸二郎守詮ハ神井鬼六猛虎が為に撃つと判。菅姫小僕しりし。
 某ホが母嫂鳴江堀竹も亦蘇塗暴道ホと血戦しと途に命之損
 せし。姫入さる賊に捉えらる。されば義を重し。恥を知る家臣ホも
 大に戦死しと戦死しと。磐井玉造の西郡の墓を賊に奪れし。この
 時某ホハ百餘騎の兵と共に遠く正方寺の枝城を守りてゆひし。
 竟に君父の先途不ぬあはれ圓山の館の没落その夜半にやえし程に
 雜兵あたるや落亡し。残る僅二十名必死とあひ決めうとあはれその
 寡兵をりく勝誇る賊軍に掛向て卵をりく石を壓し異う。時代
 俟賊と撃て君父の讐を復さんぬ瓜とあひ久しとこの曉さる枝城と

距れ離散し。このく近郷小跡を埋め。あひびく小平泉の形勢を張ふ。
 義邦ぬと。菅姫も。獵場の雉の羽と傷も猶存命をり。またと。うち
 亦用心日夜隙あらぬ堀ハ高く。斬ハ深し。天飛ぶ鳥ホあはれ。便死
 身をうち歎く。折しとあはれ。録倉より云この兩大將ぬ。び。経任謀伐の
 為既し下向のゆえあり。數百の軍兵陸續し。と。や。當國小う。ち。入
 宿志を告ぐ。先鋒に加ア。日來の鬱憤を散さん。と。あひ。の。少く
 功も。豫く。名を。と。ね。間者ゆ。あ。と。疑。その。甲斐
 あり。せめ。賊兵一人。あり。も。撃。と。首引提。そ。を見。参。の家。最。一。く。
 志を。遂。んと。あひ。け。と。び。ま。の。あり。同志の。徒。小。謀。合。一。合。さ。ま。く。と

姿を變く。この鎮守府の古城の邊ちく徘徊し。敵の出入を跟窺ひし。曩小賊將暴道時夏數百騎を二隊小ころちく前後の城門より。六角牛山のうへ推行ぬるとこの隙ふひひて攻まば城を拔ぞ。今とあざと心頻ふをすしうども。躬方へ總三十名賊ハ大々城出。今と内り守るものゆうんといへども。百騎ゆめあまうべし。白昏乃戦の便宜いあざととあひえし。且く退死泉川のこまころ。樹蔭ふ集りて。暮るるを俟候ふ黄昏ちくころ。隨平泉のこころして一個の騎馬武者走り來り某ホ遙く見く。是ころを徑任が使小く急を府城へ告るんと。ちくも猜しと竊小欲び武詮の準備の半弓。自ら取指はめ矢比ちくころ隨ふと引標と發箭小彼騎馬武者ハ肩を射らると馬より墮と落る如代昌之透さぞ走り鬼と取ておさく嚴しく縛め姓名來

由を責問し初ハ絶くいひて終ふ苦痛堪ざらんこれハ修羅殿の使者也。蛭富四九郎といふもの。昨夕厨川より兵糧庫故ちく焼く。躬方ハ反忠の力のやあ。疑ひあひ入らる左ハ右ハ安えと。この夏の趣を暴道時夏小疾若く。そのころ瓜湯をせよと。修羅將軍の仰成受く。府城へ赴くものと。滋く首伏せよと。彼が鎧の引合と揚るよ一枚の契あり。又その故を責問のふ四九郎答く。平泉厨川鎮守府の城へるぬ。縦躬方の大將ととこの契さるぬハ城小ハハ許さ。是かきくとも。修羅公の軍令かからも。生口これ命をりハ。ゆりせとのふその辭い。説らむ昌之が刃の光り共小四九郎が首。撃落しつ軍神の血祭。度ちめふと。祝し。衆人勇むそ中。小城戸武詮。商量ととく。一味の義士ハヨネかふ只一級の首を齎し。守り乃

義士暗小
經任か
使を生拘



水草太郎五

経富四九郎



陣へあつともさせる賞美あふむを彼変更閑の声やあふんさるん物の
 音幽小竹也。ちりふ賊軍敗北せし秋ひつまされ合戦の最中とかやえ
 ころ。所詮如此この謀成りて。鎮守府の城を攻落し。こまをヨ賀殿
 献らば豈下るはと密語バ衆皆志すべしと志す。ふむ死骸乃
 物の具を剥とれば城戸四郎へこまは遣らる。四九郎が馬小うち乗
 水草太郎五ホ北九人へ雑兵は紛して。鎮守府の城は去く程小ちや
 黄昏ゆそるふ多。かろ四郎武詮ハ城門の邊馬込進めて。いよ
 平泉より。當城の加勢とく。蛭富四郎仰成受軍兵を招き来れり。
 とく城門を開れんと呼ばふ。志と合す。賊兵は角門を半歩をすつくと
 透し。平泉の加勢も契あらん見せ多人とのあふ武詮そろは奪
 取る契をとく。あふ昌之は遮与ふるん昌之こまは受とりて。守門の賊

兵小示せしが且く城門の内より。いざ入りまるとぬけく門扉と左右開く
 ほふ武詮ハ下馬をせむ昌之ホ共侶一人も遺るを衝と入り。城門の
 内小聚合とる衆賊を矢庭に破し。あふのふと駭騒ふをさる八方へ
 雜倒し。異口同音小声とる立信夫莊司元晴が股肱腹心と呼ま
 へ城戸三郎守詮が弟四郎武詮水草十郎昌甫が一子太郎五
 昌之君父の怨を報ん為小追伐の大將ヨ賀殿の先鋒に参加り。同
 志の義士ホと謀し合し。こま當城を乗取り。命惜くハ降参せしと
 呼らる名告りて。縦横に尋小殺奔とばさるぬ。小龍蛇茂林の
 ち小兵火度り。矢叫鯨波漸くは近づく賊軍敗北の兆え。防戦ハんと
 逃足踏らる城中の賊兵ホ。某ホ小不意に敷。防戦ハんと
 するものも。蟾子を散らさる。八方へ逃走るを此は追詰彼に破伏せ。

只草葉を萌るごとく。四五十人を撃留く。生拘丸人及びびうが残る
奴原疾風員々も。城を踏みぬるごとく。撃落石は碎れ脱るめり稀
るに躬方へ一個も傷損なく。忽地城を乗取らる。寄みの入来と俟
不ふ果なく。時夏暴道亦軍敗る。そが落武者二十騎むらう。
甲夜は城門の邊に才の邊に夜陰されば。出ても後ぞ只箭と射けて
走らる。後小竹の彼落武者の賊の大將鶴東二暴道太郎時夏
る。さういふとぞ。知らざりし。撃留る。送懐ゆと武註これを物と云
昌之句を統たて瓜拾ひく。送代は演説と。光仲熟うらむ。く呼
智さうさか邊ホも。齡さる少く。忠孝の心いとらる。不思議の計
畧とめざりし。輒く城を攻落せり。第一番の軍功と云。これ下野に
在りしと。見冠者と。刎頸の友さうら。侍人もゆえ。平泉の柵を

攻かりし。冠者と。筐姫を救ひとらん。日を儻々俟べの。いふ忠勤と
勵ま。聊當坐の賞さうと。鞍置らる。名馬二匹を牽せ。武註日
之ホ小是瓜與。廿八人の義士ゆ。大刀物具さ。とぞ。禄を取せ。い
皆舞舞し。退れけり。こと。見聞く。士卒ホ。その計畧を感嘆し。且
その功名を差す。いふ志を。勵し。けり。と。程小春の夜さ。と。い
短く。東雲を。明し。光仲の廣綱。と。告ぐ。城中の倉廩と。ひら
錢財。卷絹の類。を。功ある。士卒。小配分。又賊の貯る。兵糧。を。過半
當郡さる。百姓。に。頒取。さう。と。東賊。乱の。窮乏。を。賑。し。法度。と。略
さる。軍令。を。正し。疾員。と。勅。で。戰。殺。せ。難兵。の。屍。と。求。めて。埋。葬。せ
よろ。慈。善。と。宗。と。賞。罰。私。あり。士。率。僉。然。び。勇。烈。日
来。ふ。十。倍。せ。り。か。く。その。夜。さ。海。老。尾。加。世。九。十。個。の。難。兵。を。拵。て。厨。川

よりかやとあり光仲みつなかと對面たいめんし。夏なつの越こ成なり次つぎ口くちより小加世九こかせくの豫よての計畧けいりやくのすふく間昨まふ厨川くしやうの柵さく小紛こまぎと入りて兵糧庫へいりやうこを燔やりて為な體たいを演説えんせつし。その軍いくさ小克こくせむひく。贖あまこの鎮守府ちんしゆふの城しろを奪うばひて。させめり。路次ろじの風聲ふうせい定さだまらば。向むかひて。その賀がを速はやく小あんおん光仲みつなかと加世九かせくが功こうを賞あづかりて。十個じゅうこの難兵なんへい小ああ賀がを速はやくせけり。小あ程ほど小光仲みつなか廣綱ひろつな西大將さいだいしやう龍蛇りゆうじや茂林まうりんの二戰にせん小賊兵そくへいと。塵ちん雨うと鎮守府ちんしゆふの城しろを攻落こうらくせり。彼此たがひ小休やすめし。初はつの券けん二に應おうせり。當國たうこくの武士ぶし淳浪じゆんろう人ひとホ日ひる。むねをせ集あつまり。その勢せいを慮りて。五百餘騎ごひやくじゆりき小あ。既すでに破竹はたけの勢せいひあり。この新隊しんたいとめて平泉へいせんを攻せんと。光仲みつなかの出陣しゆじんの分部ぶんぶを廣綱ひろつなと相譚あひだんし。廣綱ひろつな女めと當城たうじやうの事こと賊地そくちの呪のろふ。こは守まもるもの等閑たうかんあり。不虞ふよの失あはれ進しんて賊そくを

撃うち小由ゆり。ここの城しろを守まもる。後のち中なかつと出陣しゆじんを多おほく。この新隊しんたいとめて平泉へいせんを攻せんと。光仲みつなかの出陣しゆじんの分部ぶんぶを廣綱ひろつなと相譚あひだんし。廣綱ひろつな女めと當城たうじやうの事こと賊地そくちの呪のろふ。こは守まもるもの等閑たうかんあり。不虞ふよの失あはれ進しんて賊そくを率りつを留とどめて廣綱ひろつな小隸せうりと府城ふじやうを守まもり。城戸じやうこ四郎しやうらう武詮ぶせん水草すいそう太郎たうらう五昌ごしやう之の先鋒せんぽうと。佐味さみ竺しやく内ない下河邊げがへ小三郎せうしやうを後陣ごじんと備そなへて。一十餘騎じゆじゆき成なり之の隊たいより。經任きやうにんと推籠すいろうふ平泉へいせんの柵さく成なり望ぼうし。進しん退たいを。路備ろびする百姓ひやくしやう們らも老らうを扶たすけ。幼こを抱かかり。出いで大將だいしやうと。再また度たびの勝軍しょうぐんを念ねんと。案下あんげ某生まいせい再説さいせつ平泉へいせんの柵さくを賊首そくしゆ修羅しゆらと。經任きやうにんと。曩な小鎮守府ちんしゆふの偽將ぎしやう蘇塗そと暴道ばうだうが注進しゆしんを。足利あしき義兼ぎけんが。大軍だいぐんを。六角ろくかく牛山ぎゆうざんは。此度こゝろハ。賀が光仲みつなかと。當國たうこくハ。智ちあり。

時夏の勇あり。鎮守府より奴原を撃ち留んと疑ひあり。西將の多く
 軍議を凝しとせり。勝軍を告ぐと谷遣しと駭ぐ。亂色あり
 小次の日ハ又厨川の柵より。經任が偽將。跣大吠。又陰行とのみあり。飛
 馬の使をり。本柵數軒の兵糧庫のつら火燃ゆ。昨夕焼亡し
 けと告ぐ。經任の眉を擧め。厨川へ根城あり。輒く人乃往
 返を許さ。敵小間諜者ありと。難うと。今彼起る
 兵糧庫故あり。焼亡せし。躬方小反忠のあり。牧屋も亦
 へんと疾この。兵糧庫は又報知し。夏のあろ。兵糧庫を
 賊將蛭富皿九郎とのみあり。鎮守府へ遣しける。是下りて。經任の疑
 心竟小輟と。服心の。竊小眼をつり。賊の四頭領といれ
 神井鬼六猛虎。鐵省矢藤五重連。珍浦五十六方相。ホハ
 衆賊送。小心を。いと安。か。暮て又曉

衆賊送。小心を。いと安。か。暮て又曉
 ちんと。比小蘇塗。鶴東二。暴道刀野太郎。時夏ハ唯二騎小討る
 且。數个所。浅子を。負。平泉の柵。脱。神井鬼六鐵省
 矢藤五。就。敗軍の。告。經任。使。忙
 卧房を。暴。時夏を。目前。召。夏の。頭末。訊
 件の二賊ハ。拜伏。霎。頭。擡。暴。敵
 寡兵あり。か。出。戦。利。某。この。義。を。龍城
 せん。の。時。夏。過。言。吐。同。士。敵
 へ。先。景。大。早。の。兵。時。夏。小。荷。擔。勢。制。を
 某。已。軍。議。を。枉。云。計。百。餘。騎。を。留。城
 守。せ。時。夏。の。三。百。騎。と。授。敵。と。誘。入。某。亦。百。餘。騎。を

い。龍蛇茂林に埋伏を敵の追過不及に急不起とて、挟み標
 合せて撃めんよ。塵壘をばとるの、小内志のめやもえん敵を伏兵
 ありて知く。多のけりて背より。茂林に火を放りけし、躬方の竟に
 うち負て四百餘騎の軍兵に大なるを撃れり。某亦に卒し、一
 方の圍を殺披死鎮守府の城小入るととる小誰るも死信夫
 莊司が殘黨小府城之追落され、敵入るも寄著はとて
 殘兵のみ撃つ時夏某終小二人追事、敵散散し、あうやく
 恙らるるをゆるり時夏亦に怒れ、不慮の敗軍、恨は堪どその
 罪萬死に當るといふ願ふ他日軍功をのく、外口を贖ひなさん恩
 免あふ再生の救ひ小いへと、啣をり、勸解小けり。經任これを
 あへと、勃然とて声をり立かを、且暴道汝の一城を領まら、その

軍令行まど副將時夏亦が怒れ、おそれる、執居り、殺せ死敵を攻
 その謀は陥らと、夥の兵を亡く、曠城を攻落さ、何の面目ありて
 與て来らる、又時夏奴に罪多、重し汝に副將あり、我意然、恣
 りて、切はゆる戦んと欲し、已を過り人を謬る、寔は嗚呼の白物あり。
 必死にせざるあり、敵小内志を、今さ、あひあはさる、厨
 川も兵糧の故あり、て焼くも亦、這奴が所行あり、とて大座の
 下小引居よ、とて、つて、刑罪せむ、この熱腸を冷し、とて、とて、故屋
 刀を引提り、立んと、身を鬼六猛虎膝と進め、隔て、か、
 時夏亦が、行心も、尤、輕く、冷し、あ、ん、怒、ハ、然、る、と、も、渠、り、
 應せ、死、成、犯、と、阿、容、こ、と、凶、と、あ、ま、ま、で、ま、ま、で、も、あ、ら、む、
 の城小入り、敵小勸賞を乞へ、その貳、を、を、死、を、せ、
 脱る

死路ハあねど前年の功小願て且く一命を助る。他日大功あんと死
 今の罪を贖せよ是莫大の恩澤ある人敵を境に置きて躬方の
 大将と殺まへ不吉な事。枉く免させよう。と辞せしむ。諫めけり
 浩如小鎮守府の城を攻落さす。練小必死を脱まざる小賊九十
 人許大床の下ちぎ来り城戸四郎武詮亦計らば。その夜のさ又の
 為体を明之地に報へば経任やと怒小勝どまほ。哮狂ふふる鬼
 六々矢藤五小目を注し。うられバ矢藤五も亦辞を竭く暴道が為よ
 賠話鬼六ハ復時夏が為小勸解と共侶小諫へば経任も漸狂ひ病
 ま。袖の上小礮と坐し。霎時疾視て息吹死彼由此由恥しむむ。や
 小赦とせぬ奴原るねど人の諫も黙止せり。され衆人の視懲え時
 夏奴ハ雜兵の中へ追降る。水次汲せ風爐を焼せよ暴道ハ宿所小退て

信と慎とをり。と嚴ふ命掟と軀と件の両賊を追退け。信慎小懐ざり
 けん俄頃に出陣の部と府城を攻んと議する程小鬼六矢藤五五十五
 六ホ齊一これを諫てい。敵ハ初度の戦ひ小十二分うち捷て新隊も
 一挙一と城を拔へ。今攻めぬ高早と。その理り成速へば経任有理と。思ひ
 一挙一と城を拔へ。今攻めぬ高早と。その理り成速へば経任有理と。思ひ
 久の敵の虚实を撈と。間諜者を鎮守府へ遣し。又珍浦五十五六を
 三百騎が將と。泉川のあま小備させ敵をす。と告ぐ。命
 小ける。か。程小一日鎮守府へ遣せ。間諜者走りけり。さ。府城も
 新隊夥加り。その勢も。二倍せり。これゆり光仲ハ又本柵と攻んと
 欲と御用心と告ぐる。又その次の日ハ五十五六が使泉川。馬小鞭ち
 走り。光仲既小一千餘騎を。泉川を。水を背め。備と

立ち上り先鋒の如此とあり中軍後陣の箇様こと喘と告ぐ経任佐の
 冷笑ひ大約兵を行ふり水よあふとる六川を前より備を立敵その
 川を渡ると死中流よりこまを敷是兵法の要領たるふ光仲今水と
 背みし陣せし是韓信が囊沙背水の陣ふ倣ふのあり遮莫これ
 みづうら駈向ひて敷散前日暴道ホが恥を雪んひてといひみる
 一縮し馬ふらち乗り衆皆續けといひせ六鬼六矢藤五左右小備く
 芳らぬ賊兵千五百騎みか後とどと馳りける再説光仲の一千餘騎
 泉川をうち渡りて前面を倍と見こせ六川原成距五五六町ゆと賊
 軍僅小四百騎指を雌羽小衝並て射て落さんと扣り寄る乃先
 鋒武詮昌之のあゆとゆれ勇士あふれをんを巻を捺りて大
 將の下知を俟小光仲先鋒小使を立ち賊をひひ小使を察兵あり

かろく謀あらんそのとろく試とて促せ武詮昌之一議小及の
 歡と士卒を進めそ乃勢九三百騎鯨波を齊一揚と珍浦五十六が二
 軍へ面も背らむと突蒐り射とて敷と物とせと嘯叫と攻立とら
 賊兵ホハ色めれ素れと引退んとと程と賊首経任大軍を物と平泉より
 援來の彼撃散せと命叫べと神井鬼六鐵指矢藤五八百餘騎を二隊小
 分と寄るの先鋒三百騎を推包と敷んととる小寄るも亦これをとる佐
 味竺内下河邊高吉ホ四百餘騎の士卒を進めと暮直と柱留め力と
 勅しと戦へとも賊將鬼六矢藤五ハ勢をのりて此も猶豫せと馬と鋒を
 振閃して騎繞る賊兵ホ瓜罵將大と再三とび探りける五十五六が二百
 騎とれ小和をゆる盛えと武詮昌之ホが一軍と入素れつ戦ふ程と経
 任も亦七百餘騎の賊兵を潮の盈がと推しと光仲の本陣へ咄と

嘯と撃つて鬼と光仲とを士率を進めく。陽は開れ陰は閉諸葛八
 陣李靖が五法秘術を盡して挑戦矢叫の声天を翳め馬蹄の
 音入地を動して撃つ。撃つ追ひの返しのうづら隙へさうけや雷下
 光仲麾旗うち揮て賊を大軍うるといふと原是鳥合の奴原あり。
 御方へ背の大河あり退くと死の水不溺まん進めくと下知まざ士率
 ゆるく勇を奮めく。残員と推除死骸を踏踏千騎が一騎ふさそを
 ちををさすと攻立まが経任が千八百騎その鋒は碎易しくあつど用
 靡く小まん城戸水草佐味下河邊の四勇士未驚破賊軍の崩さる。
 今経任を撃捕まへ何の時を期まざると呼て馳ちく千変萬
 化と戦へ賊軍のしく乱と立く撃つめ少くも撫敗軍と見えくふ
 賊首経任此も騒がど鞍壺小穴立あがると合する剣を額小鬣羽一は

呪文を唱まが怪しむ。一朵の魔雲陰とうく経任が背のうづら立
 沖まなる蒼天ふ布満々四面晦暎うて咫尺を辨を風又颯とをう
 来く。沙を飛し樹を倒し電間まると雷の鳴ると凄しく耳と貫さ
 光小射まが寄むの士率悍しとつど進んとる不進れを退んと
 ぼる小前後小迷まがこれ小もあつど忙然とる前面より珍浦五十六
 左右より鬼六矢藤五衆賊を進めく射くる箭ハ電光よりあ母
 驚く経任が一軍も亦十字小菟ちまるとそ光仲をみ拘めまると呼る
 声も高まるとも敵は何処にあまるともゆるぬ寄むはこま騒死乱れて
 壁ハ宿鳥の鏑ま如く雜兵夥撃まると皆脱まんと打揮せり。そのと死
 光仲声をより立のひま死れ人の挙動ま賊は幻術あまると嫌て
 ようやく所まらまら只光仲が殿は跟く圍を出ると諭しこの日も



雷上動の鳴弦
 幻術をくちぎ

陣中不携する雷上動の矢弓を取らる。うち念下と馬上るがく小
 蔓目の射法弓強を三つびうち鳴せ。現名弓の徳愆を候忽雲
 散風風と舊の白晝ふるまふけり。経任の術を折れられぬ。いやく
 撓まど頻小衆賊を駈立く。ち不光仲成敷んとと尾のまをて
 鬼六矢藤五五五六木の三賊將四方八面より推ち巻く。
 横矢背箭小射くけき寄むに備を立る隙
 ろく武詮昌之の賊の矢面立塞りてをを
 先途と防戦の高利高吉の一方の
 困を突破りて大将を扶引死
 且戦ひ且走りて泉
 川をうち凌げん。



賊の大軍透間もろく追蒐する。されハ引後まゝる雑兵ハ水中ハ追落
 され底の水屑となるのみ多く。然るに河原又破仆さる。沙石ハ
 骸を埋るのみ少きを。されも先仲を佐味下河邊城戸水草の
 四將と共に残兵をおく。恙なく向の岸ハ馬兵衆揚鎮守府と投て
 退く程ハ経任ハ長く駈てこれを追ふ。甚急なり。かすまれば先仲ハ
 志どろよ走る。御方の士率を是首ハ侯彼首ハ聚る。既ハ府城ハ迫
 づく程ハ廣綱ハ城樓より遙小こを刃く。ち驚れを。間中軍人
 ちく二百餘騎を配出させ援て御方と引揚る。されハ群ごら追蒐
 来る賊の大軍徒ハ小城を駈て跟入。せむ。瓜梅と罵る。就中経任ハ
 空しく遺恨ハ堪む。敵ハ臆病神の離る。間ハ攻落せ。焦
 燥つ。稻麻の如く城を囲て。昼夜を日をも攻て。けり。

中輯第二十四

邪を祛る妙薬方
 類と賊ハ大奸計

泉川の敗軍ハ佐味下河邊城戸水草の諸將ホハさる。雑兵ハ至つ
 ち。痛む。兵員ぬ。稀き。も。み。先仲廣綱の恩を感。義と重。ド。く。
 聊も疲労を告。城ハ中五百の健兵。も。小。お。の。く。持口を。受。り。て。防
 戦ハざる。の。ろ。れ。ハ。賊。の。大。軍。蟻。の。如。く。塹。を。遠。上。堀。ハ。著。て。攻。毀。と。
 間。あ。け。ま。ど。も。城。中。弱。る。氣。色。さ。く。術。を。か。そ。く。御。示。と。十。日。あ。ま。り。ハ。及。び
 一。ハ。経。任。を。や。倦。勞。と。く。この。城。急。ハ。落。べ。く。且。く。兵。を。退。け。く。
 遠。春。め。く。日。を。送。る。城。中。竟。ハ。兵。糧。竭。ん。然。る。に。野。心。の。め。の。ぞ。あ。ん
 その。と。死。急。ハ。拉。ハ。塵。ハ。さ。つ。づ。れ。ん。さ。ら。と。く。駈。く。旨。を。付。く。攻。口。を。釋
 退。け。城。を。去。る。と。數。町。み。く。城。中。の。通。路。を。断。塞。ハ。膽。澤。の。杜。の。南

泉の里のころこまを駭陣營を結構く遠攻めぞあつたけり。これ
 ども城中の防禦ゆるく間断あり。光仲ハ廣綱とあつたけり。こ
 ゝ負を勤り。台心りの兵將。泉川より駭き。士卒のその妻その子を
 憐れいと懇切に扶持し。さうして復小光仲ハいぬ。日の戦ひ小聊矢
 傷を負ふ。さうして日数経る。腫痛を破傷風とあつたけり。遂小帳
 中ぞ卧たりける。士卒ハこれ小警免憂ひ。かおく頭を病し。大將の
 本復を禱る。さうして程小賊の陣中。一夕。神井鬼六猛虎
 夜行し。一個の行客を捕捕。臑く賊率ハこれを牽し。さうして
 經任小告ていぬ。某今夜夜行して怪し。行客と生拘り。その為
 体全く遠方より来た。ゆゑ小あつたけり。必城中より潜出する。ゆゑ
 その来歴を責問し。彼その遂小陳し。云これハ廣綱が家臣。ゆゑ海老

尾加世九と呼する。ゆゑ城より潜出する。ゆゑ泉川より戦ひ。大将光仲
 矢傷を負ふ。破傷風あり。既小是危窮の症。廣綱より代
 夏程小或人のい。この陸奥の國府より云云の良醫あり。さうして
 ちく迎し。そが療治。任し。平愈速し。ゆゑ廣綱これ小
 命。國府の良醫を召んと欲し。さうして運徴し。見付され。又の
 ち小及ぶ。ゆゑ計ひ。ゆゑ問れ。經任頭を傾け。莞然と笑し。
 うち點頭。ゆゑ生拘り。さうして知分あり。さうして居る。こ
 い。端近し。立出。床に屍を掛る。程小鬼六ハ加世九と。善子の
 下小推居し。當下經任ハ左右小命。加世九が縛を釋放させ。善子
 の上。召の。夷訛の言語を順げ。廣綱が家臣。海老尾加世九
 と。汝が。汝ハ光仲が為小城と。國府小良醫を徴し。さうして

そのるありや。ゆふと向か加世九答。然るうとのみ経任左右と見えりて。
 其の賓客は物取せよ。とくといそがせ。豫くをるをゆけん一個の
 賊率奥よりゆき。沙金を折敷小積。を成そ。ほろり小厩へか加世
 丸の果果とくいとむのあげぬらんか。うん。引もぬ。うせ。と。遠巡の
 けい。経任呵。と。うち笑ひ加世九。そのうが寸志。疑。と。受納よ。
 汝も人態。嗚呼。けあき。と。大剛のの。あき。う。大軍の。困。犯
 ち。國府へ。赴。く。と。成。せん。や。その忠勇。を。感。む。る。あ。ま。り。これ。今。汝。を。殺。す。の
 忍。心。む。心。を。改。め。く。れ。小。仕。は。富。貴。歡。樂。自。在。を。う。ん。と。い。れ。く。加。世
 丸。頭。を。拵。某。既。は。生。拘。と。く。屠。所。の。羊。釜。中。の。魚。を。再。生。へ。と。い
 ぬ。ざ。う。一。命。を。助。け。て。夥。の。禄。を。賜。す。賸。百。使。ん。と。仰。ま。る。是
 塞翁が馬。と。む。と。禍。変。と。福。ふ。ま。り。飲。ひ。と。い。ふ。は。力。の。あ。と。

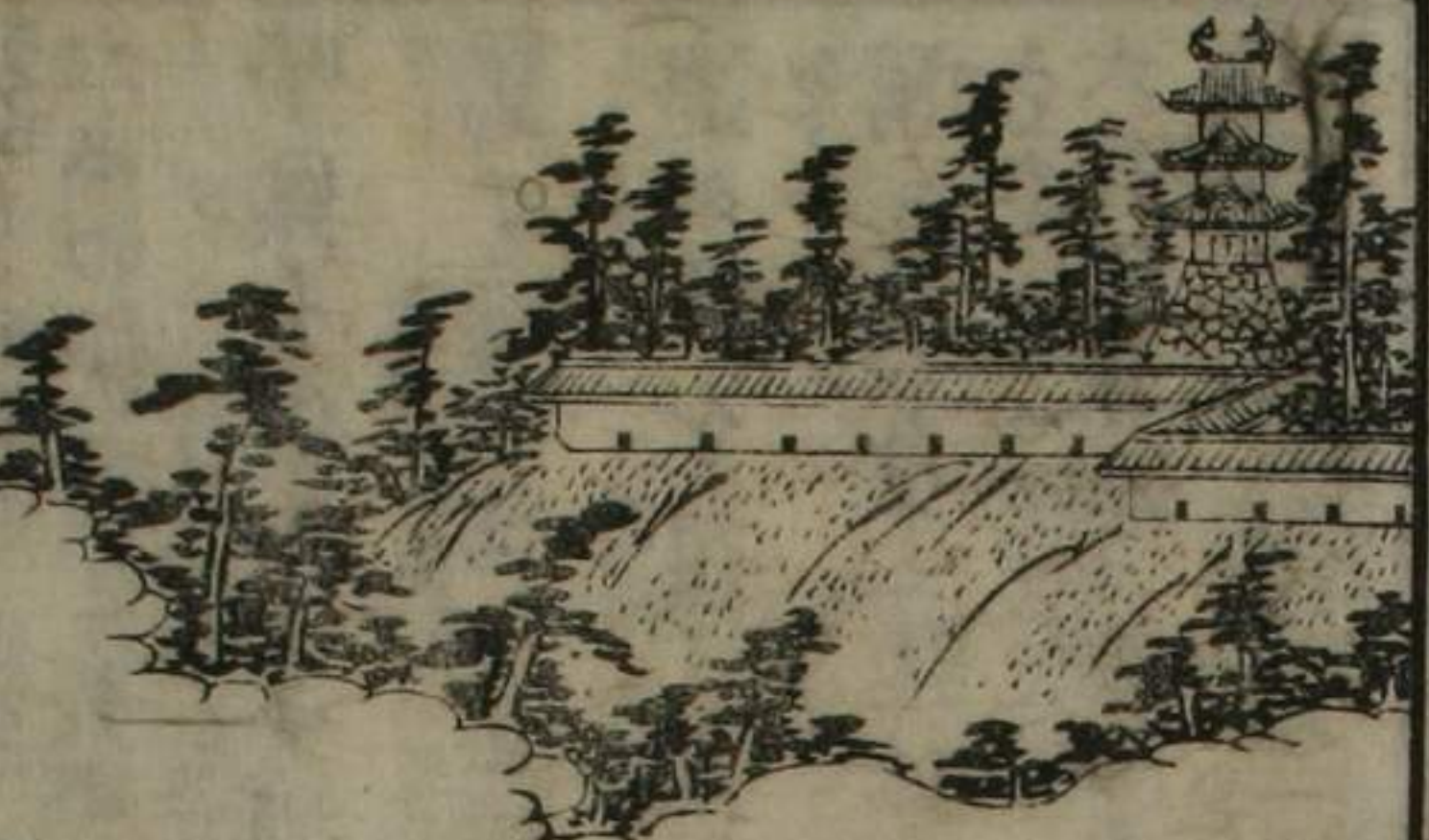
席を擗く肘を張り空を仰死目をまぶす。但癩蝦蟇の這ふ如く。
 敬く赤心と示せ。衆賊あめく笑ひを刃心づく。嗚呼の者。か
 ありひけり。かく経任。加世九を陣中小留め。毎日美酒佳釀を
 りて飽ちて不歎待させ。今のをやう。死比。う。ん。と。思。ひ。一。日。左。右。の
 賊兵を退け。獨加世九を側親く招。れ。を。汝。の。廣。綱。小。使。れ。日。と
 今日。小。仕。は。熟。く。樂。し。死。明。の。地。小。意。中。を。知。せ。よ。り。城。中。へ。歸。云
 らんと。ま。ふ。還。し。遣。ま。さ。し。汝。が。と。ろ。ゆ。ふ。を。と。問。ま。く。加。世。九。眼。を。睜。す。
 と。思。ひ。さ。う。と。成。し。も。問。せ。多。う。の。か。某。廣。綱。小。仕。一。日。一。碗。乃
 蔬。菜。さ。さ。多。く。食。ふ。と。成。ぬ。が。死。を。捕。れ。と。この。御。陣。へ。来。り。
 日。より。昏。の。美。食。は。飽。夜。の。温。小。臥。し。王。公。貴。人。の。榮。華。小。む。り。の。の
 樂。を。今。さ。棄。く。翌。立。の。日。も。憑。が。た。府。城。へ。ま。ふ。還。す。死。然。鴻。恩。と

受あつらふ報ひなる由か用ひてもあふ二命も惜と
 せぬ只報恩をりみの外は他念のあふむと回答をされば經任の
 せらるるにけふち領れさあらんはもたらんやうに牙偽るこれ
 一計ありその計畧の別議あふむむじが陣中の悪別當訥愿と
 公塞修験あり渠と年来いと小仕く替力強く膽太し汝は彼
 訥愿を伴うて今夜府城へ立ち入り國府より某甲といふ名醫と
 迎來まると偽りて渠と光仲が病床へ進めよそのとれ訥愿の光仲が
 脈を診し中ふまゝと推伏せし刺殺さん汝は城に火を放て事乃
 紛は小城門を開れ給ひ是の煙の背より短兵急に推寄て
 立地は城を落せん事成らば汝が功に四首領の次小居りて賞禄の
 乞ふ依るんよとくこのろ行んやと問は加世丸一議はあふむむそ

大役小作も又かゞ死度ゆめと其原の俳優人も廣瀨乃
 譜第小あふむ且その恩義の浅きと有鬻小故主のとあれは
 るらう殺せとらふ聊難義乃筋さても光仲は主君小あふむ
 それれとらふ彼人よ月来のひが怨ありなめ廣瀨乃息女
 且見姫小某懸想とけるふれ本意を遂むと光仲小妻これ
 胸は焼火の浅間山富士の煙の雲とらう雨とる人の樂を成いと
 多へども及ぶぬ恋と身を責むるひ絶ても怨あふ彼人の為小城と出
 國府小良醫質徴と分付と主命をいと朽をくひつる活さを
 殺と今の御談へ常言の疫鬼と讐を復と類小を願て難き
 幸ひあま左由右中あらう刺客の道死つるらんそららるる
 安うれと意趣を告て兼引中を經任大に小教びと訥愿を

立たままの阿あとと応おくく鳥とり髪かみの賊ぞく僧そう裡りよりより垂たるる幕まくをを掲たげげ傀くわい俣ゑの如ごとく見み
 れれぬぬ加か世せ丸まるををかかええるるままにに不ふ齡れいハハ四よ十じゅう許すけるる久く眼まなこ圓まる小こ色いろ黒くろくく厚あつ
 累かさねの草くさ乃すなは身み甲かぶししくく朽くち葉は色いろの大おほ袖そで小こ綾あやの銷せう金ごんの輪りん袈か裟さ袋ふくろ式しき掛か
 白しろ括くわの帯おビ或ある前まへ小こ締ひめてて朱しゆ鞋かぶの大おほ刀やいばをを跨またるる一ひと痔しああええ死し回まわ魂たま回まわりり
 某そのととああれれししりり當あた下した經つと任にんハハ訥ねつ原げん或ある傷や傷や小こ結むすむむせせ加か世せ丸まるここまま今いまハハ
 ほほるる惡あく別べつ當あた訥ねつ愿げん多たりりけけんんととししととハハ狗いぬとと鷹たかおおかかしし狩う場ば小こ赴むくく
 ろろままハハ公こう隈くま多たくく謀まう一ひと合あせせしし彼かの密みつ策さくをを豫よててししこの山やま伏ふししハハ示ししし
 會あひひををああららままけけるるこころろにに程ほど小こその日ひもも既すでにに暮くれししハハ訥ねつ愿げんハハ國くに府ふよりより
 來きるる假かり面めん師しののととくく打う扮ばんしし假かり又また行ぎやう装さうをを整ととむむ鐵てつ囊ぶくろをを懐ふ小こ一ひと藥やく
 籠かごをを腰こしににああららままけけるる加か世せ丸まるとと共とも侶りよ小こ鎮ちん守しゅ府ふの城じやうにに赴むけけババ經つと任にんハハ鬼おに六む

鎮守府の
 城一加世丸
 訥愿を伴ふ



月野日編卷二

一十八

矢藤五十五六木の賊將小伴の謀を説示し俄頃小城攻の命配て
 馬少鞍を置せ人より兵糧を食へせ城中火の獲るべし
 推寄と攻落せしを徇うける。かく経任へてや時刻小由あり六鐵
 宿矢藤五小賊率五百名を授て陣營を成らせこころ身へ鬼六五十五
 六木の偽將と共小千二百騎と將く。徐小府城と近著々加世丸が
 暗號を俟ねと小城の正門のくふ當りて猛火忽然と燃上り城兵
 罵り騒ぐ声いと遠く彼え一驚破暗號を違へると衆賊と
 進め関を獲り直先馬を馳り東の城門小攻蒐る小内より扉を
 開くりのあり。経任とあはれと欣然とく此も擬議其鬼六五十五
 六共侶小會釋もろ騎入る。その隊の賊軍七八百。みか後とと
 入る。こころ敵一騎もなきを原來謀小陥さる。退れんと散動めく

程小雷鼓忽然と鳴ゆる。鼓冬とく耳を貫れ左隊のく。間中守
 直右隊のく。下河邊高吉二隊の軍兵齊一起と射矢箭へ各鐵の
 飛ぶ如く前小立ち。賊兵を矢庭よ七八騎射く落せ。賊軍のく
 驚死靡れと戦んと。擬勢も。進退殆度を失ふ。その前面より加
 世丸の惡別當訥愿が首を刀尖小串なり。一隊の兵を招くあり。こ
 公逆賊経任とて。死えり。や。こ。賀殿の密策をうけ。あり。ぬ
 夜賊將鬼六小生拘る。是苦肉の計略あり。遂小法を計謀せ。て
 弱く柔る。訥愿の既小刑罰せ。虎狼も慾。迷ふ。を欺て
 虚こと城小入り。夏山の照射小。自業自得天罰か。の如く。あ
 べ。戈を伏る。束縛を受。呼。経任とれを。あ。面
 色烈火の如く馬上小戈と。伸。加世丸を刺。小退。小。

走る。衆賊馬前小立騒げハ一步も進むべくもあらず。左右なく備えん
 と。馬屯陝う。今。小指揮ま。く。憑切。鬼六五五六の
 賊將。間中下河邊の西軍と戦んと欲ま。こ。崩。公。と
 賊卒。誘。形。隅。推。著。ら。ふ。と。術。ま。ま。が
 路。開。け。と。呼。ぶ。の。隊。兵。夥。討。ま。り。経。任。を。見。久。り。て。か。て。を。ひ。で。う
 か。ら。べ。ん。雲。を。鳴。び。風。を。起。し。事。の。紛。ま。不。退。れ。ぬ。又。戦。め。と。あ。り。ひ。し。ら
 戈。を。棄。く。劍。を。引。抜。れ。口。小。咒。文。を。唱。れ。ば。そ。が。四。邊。より。陰。と。雲。起。ら。ん。と
 程。小。二。の。城。門。と。と。開。せ。く。賀。藏。人。先。仲。ハ。廣。綱。高。利。共。侶。小
 一。隊。の。軍。兵。を。お。く。突。出。し。經。任。を。目。小。け。り。雷。上。動。の。弓。を。り。く。並。前。積
 早。め。射。る。を。ける。さ。ま。が。その。馬。前。の。賊。兵。亦。紛。と。射。仆。さ。れて。起。ら。ん。と
 せ。雲。ハ。散。り。吹。ん。と。つ。る。風。も。乃。起。む。靈。弓。の。德。再。び。見。え。經。任。が。幻。術。の

行。ど。り。け。ま。頻。り。小。遠。の。躬。方。の。上。を。乗。越。く。影。を。暗。脱。ま。出。ま。し。ら
 ぞ。後。小。跟。く。鬼。六。五。五。六。賊。兵。お。く。後。れ。と。推。推。れ。の。輾。の。轉。の。幸
 く。と。逃。れ。と。入。り。後。ま。る。賊。兵。を。夥。外。面。小。ま。く
 入。ら。ん。と。ま。る。の。の。の。こ。は。彼。を。推。あ。め。く。突。個。さ。と。蹀。躑。ら。ん。と
 ち。月。引。く。罵。騷。く。そ。が。背。よ。り。守。直。高。吉。軍。兵。を。駈。進。め。く。漏
 さ。と。擊。程。小。正。門。の。橋。の。ほ。り。ゆ。く。賊。卒。亦。又。ま。り。その。隙。小。經
 任。の。鬼。六。五。五。六。と。共。小。四。五。百。騎。の。残。兵。を。お。く。舊。の。陣。營。を。投。て。退。く。を
 追。留。く。擊。ん。と。先。仲。と。士。率。を。引。率。て。城。を。出。く。れ。代。追。鬼。又
 廣。綱。の。留。ま。り。守。直。加。世。丸。と。その。隊。の。兵。を。分。部。し。く。前。後。の。門。を
 守。ま。せ。り。これ。バ。又。五。百。騎。小。將。と。この。霄。陣。營。を。成。り。く。鐵。槍。大。藤
 五。重。連。の。遙。小。府。城。の。く。代。り。小。を。彼。暗。跡。の。火。滅。く。矢。叫。鯨。波

のこぞいとも幽小使えりふ切内志のものを為損ども。躬方の城小より籠
らるる戦の難義及及ふの疾疾極む失あらん。さうとて賊率百餘名を
遣へる。かく陣門を守らせ。こが乃の四百餘騎をひく。馳て府城小
近はく程小經任のちや。四五百騎小敷。ちよとて鬼六五十五六と共
か。かく必死を脱する。さうく後方を見えれば光仲の大軍潮の盈
か。かく追蒐多と甚急あり。かて陣所まで退せ。踏駐りて戦ふ
つ。疾脱程へ走。え。疾と必ひく。只管小疲。勞馬小鞭。多。浩知小
泉のさう。鐵箭矢藤五援来。新隊の弓。直と備て。敵してぞ
引く。光仲へ。さ。先隊の大將高吉。ホ。速。か。賊。又。逼。り。そ
只。緩。か。小。追。ふ。べ。と。下。知。し。て。使。を。走。せ。け。り。程。小。經。任。へ。を。か。も。鐵
箭。矢。藤。五。ホ。が。援。來。り。さ。う。く。大。死。小。終。ひ。衆。賊。齊。一。陣。所。小。還。り。て

備を立んと。さ。程。小。忽。地。陣。門。の。背。より。猛。火。煽。こ。と。燃。發。ア。ま。二。隊
の。軍。兵。突。出。し。二。騎。の。大。將。左。右。小。口。さ。う。く。真。先。又。馬。瓜。跳。ら。せ。逆。賊
經。任。を。死。む。や。こ。ま。多。賀。殿。の。武。畧。小。後。ひ。甲。夜。より。竊。小。城。を
出。く。この。陣。門。小。志。の。近。づ。け。援。の。賊。兵。出。り。ま。ふ。く。ゆ。く。その。便。成
ゆ。て。遺。下。田。の。奴。原。を。或。の。撃。つ。或。の。生。拘。り。ゆ。ひ。の。隨。小。入。り。さ。う
汝。を。あ。小。俣。と。久。く。か。ゆ。ゆ。の。氏。誰。と。さ。う。信。夫。莊。司。の。舊。臣。ふ。さ。方
の。あ。や。と。知。り。さ。う。城。戸。四。郎。武。詮。あり。水。草。太。郎。五。昌。之。なり。又。と
受。し。と。喚。び。て。猛。火。の。下。より。敷。ひ。て。蒐。ま。ら。ぬ。軍。兵。二。百。と。言。て
難。立。突。伏。せ。勇。を。奮。て。攻。め。り。神。出。鬼。没。の。伏。兵。日。住。り。さ。う
れ。と。備。を。立。る。小。暇。さ。う。鬼。六。五。何。れ。小。と。矢。藤。五。五。五。六。と。共
蹴。ち。せ。と。鳴。れ。た。乱。立。る。瘴。さ。う。怪。れ。も。怯。ら。ぬ。め。の。も。金。陣。門。より

逃出^{ひが}光^{ひかり}仲^{なかつ}の先^{せん}鋒^{ぽう}高^{たか}利^り高^{たか}吉^{きち}士^し卒^そを進^{しん}め^る追^お蒐^う牙^がの^の前^{まへ}後^ごより
 さ^さ挟^{はさ}む^くい^いと^とを^をむ^むり^り攻^{せめ}撃^うみ^まぞ^ぞ又^{また}敷^しく^くの^の少^{すく}う^うを^をま^まる^るあ^あら^らま^まる^る
 經^{きん}任^{にん}之^の三^{さん}騎^ぎの^の賊^{ぞく}將^{しやう}と^と力^{ちから}を^を勲^{おん}し^しく^く稍^{さう}一^{いつ}方^{ほう}を^を殺^{ころ}し^し平^{へい}泉^{せん}の^のく^く
 且^{かつ}城^{じやう}戸^こ水^{みづ}草^{くさ}下^{した}河^か邊^{へん}ホ^ほ達^{たつ}返^{かへ}せ^せと^と呼^よび^ひけ^けく^く齊^{せい}一^{いつ}こ^こは^は追^お不^ふ程^{じやう}小^{せう}既^{けい}不^ふ
 ま^まく^く經^{きん}任^{にん}ホ^ほの^の泉^{せん}川^{がわ}ま^まく^く落^お延^{のび}の^の馬^{うま}を^をさ^さと^と乗^{のり}入^いる^るま^まく^く河^か水^{みづ}忽^{たち}地^ち左^さ右^うま^ま
 こ^ころ^ろと^と陸^{りく}地^ちを^をひ^ひく^く小^{せう}異^いち^ちる^るま^ま後^ご不^ふ賊^{ぞく}將^{しやう}賊^{ぞく}卒^そも^も皆^{みな}そ^の迹^{あと}を^を踏^ふ程^{じやう}に^に
 輒^{たち}く^く川^{がわ}を^を渡^{わた}り^り活^{かつ}知^ち小^{せう}追^お隊^{たい}の^の軍^{ぐん}兵^{へい}む^むく^くと^と走^はり^り早^{はや}雄^{ゆう}の^の士^し卒^そ
 七^{しち}八^{はち}名^な中^{ちゆう}の^の涸^かれ^れ水^{みづ}ま^まぐ^ぐ渡^{わた}り^りま^まぐ^ぐ忽^{たち}然^{ぜん}と^と河^か水^{みづ}に^にち^ちち^ち小^{せう}落^おあ^あり^りて^て件^{けん}
 の^の士^し卒^そを^を流^{なが}し^しり^り當^{あた}下^{した}武^ぶ詮^{せん}昌^{しやう}之^のホ^ほ高^{たか}吉^{きち}と^とも^も小^{せう}追^お蒐^う牙^がと^とも^も士^し卒^その^の
 濁^{にご}る^る水^{みづ}を^をお^おろ^ろ流^{なが}急^{いそ}け^け且^{かつ}救^{きう}ふ^ふ由^{よし}か^か河^か水^{みづ}要^{えい}時^じ中^{ちゆう}絶^{たつ}へ^へ是^こを^をま^まぐ^ぐ
 經^{きん}任^{にん}幻^{げん}術^{じゆつ}と^とも^も左^さ右^うを^をひ^ひく^く入^いら^らむ^む向^{むか}の^の岸^{きし}を^を疾^{はや}視^して^てあ^あら^らま^まる^る

其^{その}如^{ごと}く^く不^ふ行^{ぎやう}る^るか^かア^ア程^{ほど}小^{せう}光^{ひかり}仲^{なかつ}ハ^ハ佐^さ味^み高^{たか}利^りを^を先^{せん}小^{せう}立^たし^し備^びを^を乱^{らん}さ^さに^に
 士^し卒^そを^を進^{しん}め^る泉^{せん}川^{がわ}の^の上^{うへ}ま^まぐ^ぐ牙^がに^にま^まぐ^ぐ高^{たか}吉^{きち}ホ^ほハ^ハ經^{きん}任^{にん}ガ^ガ幻^{げん}術^{じゆつ}ヲ^ヲ用^{もち}ひ^ひて^て
 兵^{へい}と^と溺^おり^り且^{かつ}船^{ふね}を^をけ^けり^り渡^{わた}り^りて^て賊^{ぞく}と^と走^はり^りこ^ころ^ろに^に告^つぐ^ぐ俄^{たち}頃^{げん}小^{せう}追^お邊^{へん}
 なる^る竹^{たけ}木^きと^と伐^きち^ちり^り後^ごを^を造^{つく}ち^ちめ^めんと^とい^いふ^ふを^を光^{ひかり}仲^{なかつ}に^に推^おし^し禁^{きん}め^め窮^{きゆう}兵^{へい}ハ^ハ
 追^お不^ふべ^べる^るま^ま今^{いま}經^{きん}任^{にん}ガ^ガ首^{くび}を^を獲^とり^りて^て天^{てん}誅^{しゆ}に^にま^まぐ^ぐ久^くし^しく^く且^{かつ}く^くナ^なハ^ハ小^{せう}
 天^{てん}を^を明^あく^く川^{がわ}を^を渡^{わた}り^りて^て遲^{おそ}く^くハ^ハ此^こに^に散^{さん}在^{ざい}す^す士^し卒^そを^をい^いち^ち
 集^{しゆ}合^{ごう}し^して^てか^かく^く揚^あ螺^ら吹^ふけ^けし^し小^{せう}衆^{しゆう}皆^{みな}本^{ほん}陣^{じん}に^に聚^あり^りて^て討^{うち}
 ち^ちり^り首^{くび}と^とも^も實^{じつ}檢^{けん}入^いり^りて^て各^{おの}々^{おの}に^に賊^{ぞく}將^{しやう}の^の首^{くび}を^を取^とり^りて^て討^{うち}
 軍^{ぐん}功^{こう}ハ^ハ加^か世^せ丸^{まる}小^{せう}勝^{しょう}め^めの^のか^かし^しと^と光^{ひかり}仲^{なかつ}ハ^ハ其^{その}語^ご朝^あ使^しを^を遣^{つか}し^して^て討^{うち}
 感^{かん}状^{じやう}を^を与^より^りけ^けり^り次^{つぎ}の^の日^ひ光^{ひかり}仲^{なかつ}ハ^ハ平^{へい}泉^{せん}へ^へ寄^より^りて^て経^{きん}任^{にん}ガ^ガ首^{くび}を^を取^とり^りて^て討^{うち}
 隠^{かく}せ^せ船^{ふね}を^を求^{もと}め^めし^し泉^{せん}川^{がわ}を^を渡^{わた}り^りて^て彼^かの^の郷^{きやう}士^し野^の武^ぶ士^しハ^ハま^まぐ^ぐ討^{うち}

捷軍を侍人使り。縁を徵め名簿を呈し。走如るのさるるを又十五
 百餘騎小あまぬ。即ち三隊小くちり。平泉へ寄はる小及ぶ。諸
 將と軍議をす。斬を踰壻を致す。急小柵を破る。其賊ハ心死
 多ひ。決めて一致し。禦ぐるべし。ちが柵を破るといふ。御方も過半
 傷損せん。欽さる軍小勝とも功あり。経任さの戦ひ小同類。野
 せと陣中る兵糧。之皆焼亡とす。ちがも平泉ある柵。小物のま
 ちづくもあまぬ。且指籠る賊兵も猶千餘騎あり。曩小く軍敗
 れて賊小追はる。城小籠りけり。亦賊と追はる。進ま。柵を攻んと欲す。或ハ
 主とあり客とあり。勝負を未然と決ま。只三方より遠巻小く。特
 角の勢ひ成張るべし。ちが夜ハ鉦鼓を鳴り。鯨波を揚をす。攻を
 ちが小せ。賊を昼夜の防禦小疲勞。憚るのヨメ。ちが勞る。

死心成生し。憚るといふ。成を失ふ。是必然の勢ひ。これその虚小乗し。攻
 撃ハ一戦小柵を抜くべし。且平泉の柵。昔藤原秀衡みづ。工夫
 の繩張り。究竟の要害あり。と侍人使りが果し。違ハ。ちが軍
 令小随。抜蒐さる。のハ斬らん。ちが陣營をとり固め。朝掛
 夜撃の用心せし。一人の怠慢ハ。千五百騎の命小係。敵と侮る
 べし。と嚴小告。柵を距ると数町。堅固小陣を布。且遠攻小を
 且遠攻小を。されバ又修羅五郎経任ハ。三個の賊將と共に。
 残兵を招く。平泉の柵小。籠る。曩小。柵を成。賊兵五六百名あり。加之討漏。これ。賊率小五騎十騎は。遷
 聚の。無慮千餘騎小。負。氣を屈。鬼
 六五十五。矢藤五木の賊將小。攻口を固め。防禦の軍。

らる毎日小又がうろ城樓小登りまゝ寄るの陣を引日ごとく一日一
 の関のありさるる一隊の軍兵出来たり。経任も中々は成りぬ。
 又遠眼鏡をとり直し。ほくとうち見る小紛ふべくもあらず。躬方の
 兵もあけきり腹裏小あらず。彼ハ路犬吠又が先度の敗軍の告小
 又。こゝにふ力を添へて。厨川よりゆくの兵を招く。来るあつん
 ちれども彼軍勢成推さる小五百騎。よ過るべし。継日が士率を
 出し助けし柵へ入ると。後休とを寄る。奴原渡留めく。度之難
 義小及ん軟せんま。あつんと。劔を引拔れ。霎時呪文を唱じ。霹靂々
 とく雲起り。柵中柵外忽地小野干玉の鳥夜とうたれり。黒
 白も別ざり。吠又これ。便り成りぬ。案内知る。こゝに。あつん
 小迷ひ。後門より。軍勢を繰入しけり。寄る。絶くこれを。あつん。

時未の下射る。小俄頃小暗く。あつん。こゝに。経任が。あつん。

撃つ。出ん。為。な。る。ま。じ。一。度。莫。雷。上。動。の。靈。弓。あ。つ。ん。あ。つ。ん。小。足。つ。と。

久。出。ハ。撃。ん。と。掌。柄。膏。引。く。士。率。齊。一。俟。く。賊。一。騎。も。出。休。

一。と。く。且。く。一。と。く。空。霽。け。り。後。小。只。光。仲。の。一。経。任。が。彼。幻。術。を。加。

勢。の。賊。兵。を。引。入。り。為。こ。え。ん。と。稍。曉。り。士。率。小。云。云。と。示。し。り。

事情を。ゆ。さ。と。皆。悔。し。く。あ。つ。ん。さ。あ。程。は。経。任。ハ。吠。又。が。加。勢。と。

合。し。く。千。五。六。百。騎。小。あ。つ。ん。敵。を。侮。り。り。驕。り。り。遂。小。あ。つ。ん。

衆。賊。を。指。揮。せ。し。り。は。成。功。の。あ。つ。ん。バ。誇。貌。小。示。さ。り。り。あ。つ。ん。

光。仲。ハ。日。が。術。に。害。怕。く。只。遠。卷。小。あ。つ。ん。の。一。絶。く。一。遍。も。柵。を。攻。む。

あ。つ。ん。時。日。を。過。さ。る。渠。か。あ。つ。ん。兵。糧。竭。ん。退。死。ま。り。と。欲。さ。り。り。

柵。上。り。一。度。小。殺。出。る。一。舉。一。と。光。仲。を。撃。つ。と。疑。ひ。か。し。と。

勞するところとく。鬼六矢藤五吠又五十五六木小攻口と守らせり。身ハ帳臺の下小引籠。彼文字搦及夥の美女と聚合。酒乃為小患ひを忘とく。歌舞郢曲小夜を曉し。又ありと死ハ獄舎より。義邦を牽出として。おはは庭前。責鞭せ。尾姫小説勸めく。小隨せつと催促も。その他一毫も意小違ふのあまぶ立地小破投。その肉を殺め。人小由食せ。こまこ食ひ多。その残忍暴行。古小も今中も多々く。くをの顔を背けり。不題。蘇塗鷄東二暴道ハ暴小敗軍の外口より。閑籠らとく。程小経任漫。小敵を侮。軍配を諸將に任して。酒宴遊興夜を日に續ぐ。淫樂とのま夏と。傳人。驚死。人小就。状を進め。只管小涼。経任。と。然。と。暴道。軍略。智術。小長。の

ろ。渠を免。召出。舊の。軍士小せ。寄。の。兵。糧。竭。み。成。り。て。敵。を。退。る。計。策。を。考。へ。む。や。と。召。出。さ。る。辱。と。と。練。る。よう。あ。ん。と。い。は。さ。か。る。暴。道。を。用。ひ。ど。と。敵。小。克。れ。ぬ。と。く。と。小。諫。を。容。さ。り。け。る。業。下。某。生。再。説。刀。野。太。郎。時。夏。ハ。既。小。難。兵。追。降。さ。し。水。を。汲。み。風。爐。を。焼。さ。い。く。む。の。日。と。送。れ。と。逃。去。ら。ん。ゆ。へ。る。の。あ。ま。小。の。辱。を。忍。ぶ。あ。ま。の。人。の。恨。獨。情。お。の。み。か。暴。道。已。が。非。を。飾。ア。龍。蛇。茂。林。の。敗。軍。を。こ。ら。り。印。小。塗。著。と。こ。ら。を。這。奴。と。籠。中。小。執。ら。ん。ゆ。へ。る。安。然。と。く。日。を。送。り。こ。ま。浴。架。の。火。燒。鳥。尾。羽。を。濡。く。啼。ぬ。と。啼。ぬ。又。文字。搦。奴。も。憎。む。べ。こ。ら。の。へ。ち。る。ろ。這。奴。ハ。主。小。許。さ。し。て。こ。ら。と。衣。を。累。し。情。話。の。舌。を。引。く。又。さ。小。主。媚。々。ん。の。後。絶。て。あ。め。と

洋 譯 澤 野

かし。その修羅殿の吝めく一旦こゝろ小ふし。の成又豪奪く返さば。
 小あつち。たつち。のち。も。噎。見と主。小勝。が。ぬ。も。あ。れ。か。も。
 あ。は。文字。搦。奴。が。薄。情。を。う。さ。い。偷。び。て。も。あ。り。あ。べ。し。よ。や。そ。こ。を。せ。
 ぬ。ま。う。と。と。こ。ま。今。か。う。さ。ぬ。く。這。奴。が。為。小。水。成。汲。と。毎。日。小。
 風。爐。を。焼。と。知。り。々。渠。が。為。小。主。小。勸。解。く。一。言。半。句。の。執。成。を。い。ん。
 ざ。ら。ゆ。小。ぞ。や。怒。ハ。件。の。兩。人。小。あり。こ。こ。は。文字。搦。を。も。殺。さ。ぶ。く。暴。道。
 を。殺。さ。ぶ。く。男。子。と。生。れ。一。甲。斐。ハ。あ。ら。む。と。や。せ。ま。し。か。く。や。せ。ま。し。と。
 獨。ら。る。成。若。し。め。一。兩。日。と。經。る。程。小。謀。を。ぬ。く。ま。ら。ぬ。その。詰。朝。文。
 字。搦。が。浴。を。る。を。窺。ひ。けり。抑。経。任。に。使。く。婢。女。輩。の。浴。室。を。後。
 堂。の。巽。小。あ。り。七。間。の。行。廊。二。間。の。浴。盤。日。小。新。あ。り。又。日。小。新。あ。り。と。
 欲。さ。る。美。女。小。朝。より。暮。る。ま。で。入。り。か。つ。て。立。か。り。浴。せ。さ。る。と。あ。ら。む。と。

め。と。ど。文字。搦。ハ。経。任。が。愛。妾。の。り。め。一。あ。ら。む。第。一。番。と。定。ら。ま。し。渠。が。
 浴。せ。さ。る。程。ハ。入。る。め。の。絶。え。ま。ら。む。けり。さ。ゆ。う。う。小。時。夏。ハ。壁。を。隔。て。火。を。
 焼。く。の。も。文字。搦。を。こ。ん。さ。し。か。ら。ま。し。と。第。一。番。入。る。め。の。ハ。渠。あり。けり。
 と。豫。て。し。り。知。り。こ。こ。の。日。も。文字。搦。ハ。肘。ち。り。小。召。使。ふ。兩。人。乃。
 童。女。小。浴。禪。風。爐。布。内。衣。を。ぬ。け。り。生。平。の。如。く。た。り。又。あ。ら。む。と。さ。ら。む。
 浴。を。る。程。又。時。夏。を。ち。く。窺。ひ。知。り。薪。を。添。々。嘆。息。し。痛。し。死。な。あ。ら。む。の。
 君。の。浴。も。け。め。限。り。ま。ら。ん。狄。幸。ひ。ぬ。く。恙。さ。ら。む。と。終。り。を。入。り。計。
 ら。ま。し。ぬ。小。飽。ま。し。と。大。事。小。及。ん。と。是。苟。小。も。その。ち。免。借。老。乃。契。
 あ。や。ま。が。ら。末。の。松。山。波。の。越。ま。し。主。命。ま。ら。ぬ。ハ。せん。恨。し。と。の。り。の。り。
 憎。し。と。多。ぬ。君。が。為。小。その。仇。人。を。告。る。小。由。あ。り。最。上。の。川。に。使。ふ。鶴。を。
 巴。が。腹。を。肥。さ。し。と。く。人。の。為。小。鮎。と。を。捉。る。み。が。う。誰。と。考。へ。く。喉。小。あ。



草子四巻之二

